

平成30年度

統一的な基準による財務書類

【概要版】

福岡県 豊前市

目 次

○ 統一的な基準による財務書類の公表について	1
○ 財務書類4表の見方	2
○ 一般会計等財務書類(概要版)	3
○ 全体財務書類(概要版)	4
○ 連結財務書類(概要版)	5
○ 財務書類の分析指標(一般会計等)	6

統一的な基準による財務書類の公表について

§ はじめに

地方公共団体の会計は、予算を議会による民主的統制のもとに置き、適正かつ確実に執行するため単式簿記による現金主義会計を採用しています。

現金主義会計は予算管理の点では優れていますが、会計の財政状態を明らかにするための資産や負債といったストック情報や、減価償却費や退職手当引当金といった現金支出を伴わないコストを把握することができません。

本市では、平成19年度決算分から「総務省方式改訂モデル」に従って財務書類を作成してきましたが、平成27年1月に総務省から「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」が示され、現金主義会計を補完するために発生主義会計による財務書類（貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書）の作成が要請されたことを受け、平成28年度決算分より「統一的な基準による財務書類」を作成し公表しています。

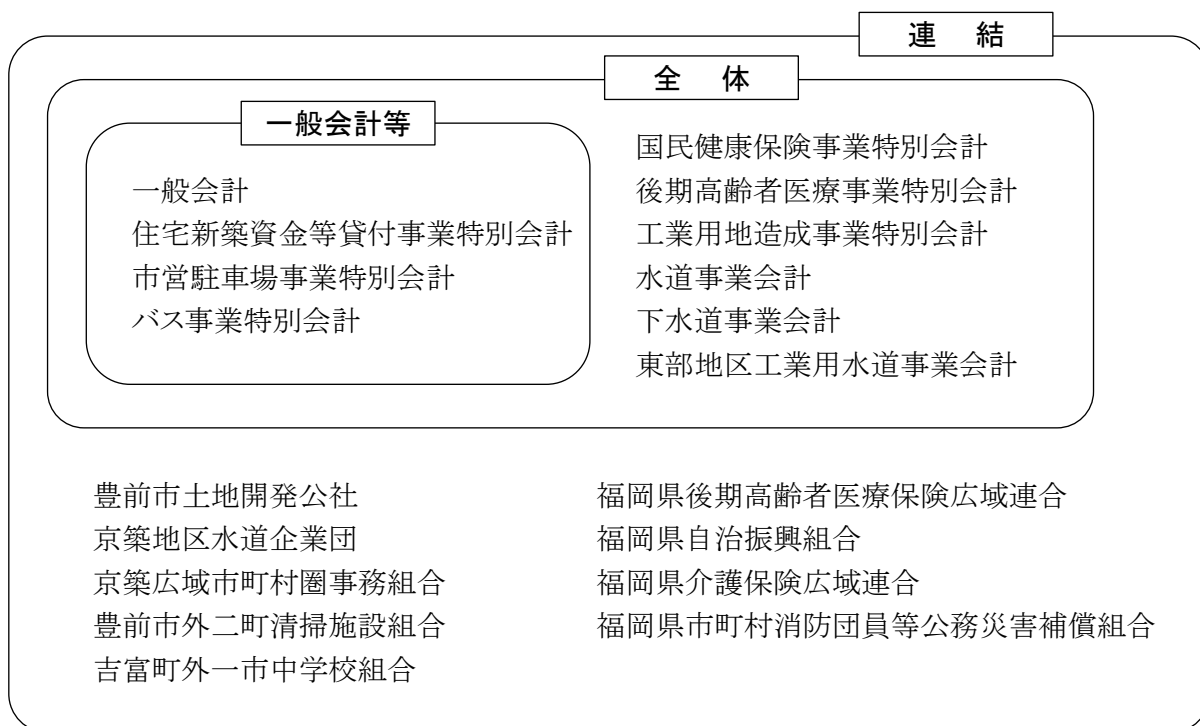
§ 作成基準日

作成基準日は平成31年3月31日です。

なお、出納整理期間が設けられている会計においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の計数をもって会計年度末の計数としています。

§ 財務書類の範囲について

一般会計等財務書類、全体財務書類、連結財務書類を作成します。それぞれの財務書類の対象範囲は以下のとおりです。



※なお、上毛町外一市一町矢方池土木組合及び豊前市外二町財産組合については、統一的な基準による財務書類未作成のため連結対象外とします。

財務書類4表の見方

(1) 貸借対照表（バランスシート）

基準日時点において、市が保有している資産と、その資産がどのような財源（負債・純資産）で賄われているのかを表した財務書類です。表の左側に資産、右側に負債及び純資産が計上され、資産の合計と負債・純資産の合計が常に一致することからバランスシートと呼ばれます。貸借対照表の主な項目は以下のとおりです。

資産	事業用資産	市庁舎、学校、市営住宅、公民館、文化施設、スポーツ施設等の用地や施設
	インフラ資産	道路、橋梁、河川、水路、港湾、上下水道、公園等の用地や施設
	長期延滞債権	過年度分の税等の未収金。当年度発生分は未収金として流動資産に計上
	基金	財政調整基金は流動資産、その他の特定目的基金は固定資産に計上
負債	地方債	将来返済しなければならない借金の残高。翌年度返済分は流動負債に計上
	退職手当引当金	基準日時点で必要な退職手当の見積額
純資産	固定資産等形成分	資産形成のために充当した資源の蓄積
	余剰分(不足分)	基準日時点で使用可能な余剰金。通常は地方債等の将来世代の負担があるためマイナスとなっている。

(2) 行政コスト計算書

一会計期間において、資産形成に結びつかない経常的な行政活動に係る費用と、その行政活動の対価として得られた使用料・手数料などの収益を対比させた財務書類です。行政コスト計算書の主な項目は以下のとおりです。

退職手当引当金繰入額	貸借対照表の「退職手当引当金」に加算される当年度分の引当金
減価償却費	過去に取得した固定資産の取得価額を耐用年数で分割した当年度の負担額
純行政コスト	税収や国県等補助金で賄うことになる金額

(3) 純資産変動計算書

貸借対照表の純資産の部に計上されている各項目が、1年間でどのように変動したかを表す財務書類です。

「本年度差額」の欄がマイナスの場合は、当年度の純行政コストを当年度の税収等で賄いきれていないことを表しています。特別な理由も無くマイナスの状態が経常的に続いている場合は将来世代の資源を現世代が消費し続けていることを意味します。

(4) 資金収支計算書（キャッシュフロー計算書）

一会計期間における、地方公共団体の行政活動に伴う現金等の資金の流れを三つの活動に区分して表した財務書類です。

業務活動収支	人件費、物件費、社会保障費等の経常的な行政サービスにかかる支出と、税収、国県補助金、使用料等の収入の差引。これがマイナスだと、投資活動収支や財務活動収支のマイナスを補えないため財政的に良好な状態ではない。
投資活動収支	資産形成(公共施設の整備、基金積立金、貸付金等)にかかる支出と、国県補助金、基金繰入金、貸付金回収等の収入の差引。資産形成が行われれば通常はマイナスとなるが、基金の取崩しが行われるとプラスとなる場合がある。
財務活動収支	主に地方債償還等の支出と、地方債発行等の収入の差引。これがプラスだと、地方債の未償還残高が増加していることになる。

一般会計等財務書類

概要版

(1) 貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
固定資産	34,766	固定負債	10,978
有形固定資産	29,018	地方債	9,065
事業用資産	19,910	退職手当引当金	1,832
インフラ資産	8,738	その他	81
物品	370	流動負債	1,359
無形固定資産	65	1年内償還予定地方債	1,097
投資その他の資産	5,683	賞与等引当金	109
長期延滞債権	342	預り金	113
基金	1,564	その他	40
その他	3,777	負債合計	12,337
流動資産	1,918	純資産の部	
現金預金	278	← 固定資産等形成分	36,276
未収金	53	余剰分(不足分)	△ 11,930
基金	1,510	純資産合計	24,347
その他	76	負債及び純資産合計	36,684
資産合計	36,684		

(2) 行政コスト計算書

[自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

経常費用	10,341
業務費用	5,743
人件費	1,804
職員給与費	1,431
退職手当引当金繰入額	125
その他	248
物件費等	3,807
物件費	2,572
維持補修費	102
減価償却費	1,132
その他	1
その他の業務費用	132
支払利息	92
その他	40
移転費用	4,598
補助金等	2,249
社会保障給付	1,958
他会計への繰出金	387
その他	5
経常収益	421
使用料及び手数料	200
その他	220
純経常行政コスト	9,921
臨時損失	35
臨時利益	230
純行政コスト	9,726

(3) 純資産変動計算書

[自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

前年度末純資産残高	23,932
→ 純行政コスト(△)	△ 9,726
財源	10,107
税収等	7,708
地方税	3,330
地方交付税	3,241
その他	1,136
国県等補助金	2,399
本年度差額	381
その他純資産変動	34
本年度末純資産残高	24,347

(4) 資金収支計算書

[自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

業務活動収支	1,342
投資活動収支	△ 976
財務活動収支	△ 290
本年度資金収支額	75
前年度末資金残高	90
本年度末資金残高	165
前年度末歳計外現金残高	117
本年度歳計外現金増減額	△ 3
本年度末現金預金残高	278

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、計と一致しない場合があります。

全体財務書類

概要版

(1) 貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
固定資産	46,346	固定負債	17,461
有形固定資産	41,667	地方債	12,945
事業用資産	19,910	退職手当引当金	1,853
インフラ資産	20,614	その他	2,663
物品	1,144	流動負債	1,817
無形固定資産	81	1年内償還予定地方債	1,393
投資その他の資産	4,598	賞与等引当金	118
長期延滞債権	495	預り金	128
基金	1,564	その他	178
その他	2,539	負債合計	19,278
流動資産	2,669	純資産の部	
現金預金	887	← 固定資産等形成分	47,856
未収金	191	余剰分(不足分)	△ 18,119
基金	1,510	純資産合計	29,738
その他	81	負債及び純資産合計	49,016
資産合計	49,016		

(2) 行政コスト計算書

[自 平成30年 4月 1日]
[至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

経常費用	14,293
業務費用	6,926
人件費	1,920
職員給与費	1,535
退職手当引当金繰入額	128
その他	257
物件費等	4,734
物件費	3,036
維持補修費	136
減価償却費	1,556
その他	6
その他の業務費用	272
支払利息	177
その他	95
移転費用	7,367
補助金等	5,404
社会保障給付	1,958
他会計への繰出金	0
その他	5
経常収益	990
使用料及び手数料	745
その他	245
純経常行政コスト	13,304
臨時損失	38
臨時利益	230
純行政コスト	13,112

(3) 純資産変動計算書

[自 平成30年 4月 1日]
[至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

前年度末純資産残高	29,459
→ 純行政コスト(△)	△ 13,112
財源	13,353
税収等	8,532
地方税	3,790
地方交付税	3,241
その他	1,500
国県等補助金	4,822
本年度差額	242
その他純資産変動	37
本年度末純資産残高	29,738

(4) 資金収支計算書

[自 平成30年 4月 1日]
[至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

業務活動収支	1,610
投資活動収支	△ 1,241
財務活動収支	△ 391
本年度資金収支額	△ 22
前年度末資金残高	796
本年度末資金残高	773
前年度末歳計外現金残高	117
本年度歳計外現金増減額	△ 3
本年度末現金預金残高	887

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、計と一致しない場合があります。

連結財務書類

概要版

(1) 貸借対照表

(平成31年3月31日現在)

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
固定資産	52,627	固定負債	21,594
有形固定資産	47,587	地方債	14,550
事業用資産	21,184	退職手当引当金	1,811
インフラ資産	25,011	その他	5,233
物品	1,392	流動負債	2,280
無形固定資産	2,572	1年内償還予定地方債	1,597
投資その他の資産	2,467	賞与等引当金	140
長期延滞債権	505	預り金	130
基金	2,108	その他	414
その他	△ 146	負債合計	23,874
流動資産	3,771	純資産の部	
現金預金	1,588	← 固定資産等形成分	54,353
未収金	374	余剰分(不足分)	△ 21,830
基金	1,727	他団体出資等分	0
その他	82	純資産合計	32,523 ←
資産合計	56,397	負債及び純資産合計	56,397 ←

(2) 行政コスト計算書

[自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

経常費用	21,360
業務費用	8,004
人件費	2,333
職員給与費	1,924
退職手当引当金繰入額	128
その他	281
物件費等	5,320
物件費	3,269
維持補修費	186
減価償却費	1,807
その他	58
その他の業務費用	351
支払利息	204
その他	147
移転費用	13,356
補助金等	11,389
社会保障給付	1,960
他会計への繰出金	0
その他	6
経常収益	1,350
使用料及び手数料	1,017
その他	334
純経常行政コスト	20,009
臨時損失	38
臨時利益	230
純行政コスト	19,817 ←

(3) 純資産変動計算書

[自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

前年度末純資産残高	31,410
→ 純行政コスト(△)	△ 19,817
財源	20,169
税収等	13,696
地方税	3,790
地方交付税	3,241
その他	6,664
国県等補助金	6,473
本年度差額	352
その他純資産変動	762 ←
本年度末純資産残高	32,523 ←

(4) 資金収支計算書

[自 平成30年 4月 1日
至 平成31年 3月31日]

(単位:百万円)

業務活動収支	2,007
投資活動収支	△ 1,392
財務活動収支	△ 336
本年度資金収支額	279
前年度末資金残高	1,201
本年度末資金残高	1,475
前年度末歳計外現金残高	117
本年度歳計外現金増減額	△ 4
本年度末現金預金残高	1,588 ←

※ 表示単位未満を四捨五入しているため、計と一致しない場合があります。

財務書類の分析指標(一般会計等)

・ 住民一人当たり資産額

資産合計 ÷ 住民基本台帳人口

住民一人当たりの資産額を算出し類似団体と比較することにより、資産形成の度合いを評価することができます。なお、住民基本台帳人口は類似団体のデータと比較するため当該年度の1月1日時点の人口を使用しています。

今年度は前年度から人口が399人減少し、一人当たりの資産額は3万円増加しています。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
住基人口	26,375人	26,040人	25,641人
豊前市	139万円	140万円	143万円
類似団体平均	204万円	199万円	-

・ 有形固定資産減価償却率(資産老朽化比率)

有形固定資産減価償却累計額 ÷ 有形固定資産取得価額

事業用資産及びインフラ資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合を見ることにより、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているかを全体として把握することができます。割合が大きいほど資産の老朽化が進んでいるといえます。

今年度は、前年度から数値が1.9%増加しています。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
豊前市	50.0%	52.1%	54.0%
類似団体平均	58.6%	59.3%	-

・ 純資産比率

純資産合計 ÷ 資産合計

資産総額における純資産の割合を見ることにより、過去及び現世代の負担の割合を把握することができます。また負担割合の変動を見ることにより、世代間の負担割合の変動を把握することができ、数値が増加した場合は過去及び現世代の負担割合が増加したことを意味します。

今年度は、前年度から数値が0.9%増加しています。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
豊前市	65.2%	65.5%	66.4%
類似団体平均	70.7%	70.4%	-

・ 将来世代負担比率

地方債合計(特例地方債を除く) ÷ 有形・無形固定資産合計

有形・無形固定資産に対して、将来の償還等が必要な負債による調達割合を見ることにより、社会資本等形成に係る将来世代の負担割合を把握することができます。割合が大きいほど将来世代の負担が大きいといえます。

今年度は、前年度から数値が0.3%減少しています。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
豊前市	19.6%	19.1%	18.8%
類似団体平均	17.6%	17.5%	-

・ 住民一人当たり行政コスト

行政コスト ÷ 住民基本台帳人口

住民一人当たりの行政コストを算出し類似団体と比較することにより、行政サービスの効率性の度合いを評価することができます。なお、住民基本台帳人口は類似団体のデータと比較するため当該年度の1月1日時点の人口を使用しています。

今年度は前年度から人口が399人減少し、一人当たりの行政コストは1万円減少しています。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
住基人口	26,375人	26,040人	25,641人
豊前市	39万円	39万円	38万円
類似団体平均	41万円	40万円	-

・ 受益者負担比率

経常収益 ÷ 経常費用

使用料や手数料といった受益者負担の経常経費に対する割合を類似団体と比較することにより、行政サービスの提供に対して使用料等の受益者負担でどの程度賄えているのか把握することができます。

今年度は、前年度から数値が0.4%増加しています。

項目	平成28年度	平成29年度	平成30年度
豊前市	3.7%	3.7%	4.1%
類似団体平均	4.5%	4.4%	-